第3章　石西礁湖自然再生の目標

石西礁湖自然再生では、長期目標（達成期間：30 年）と短期目標（達成期間：10 年）を次のとおり定めることとします。

長期目標：人と自然との健全な関わりを実現し、1972 年の国立公園指定当時の豊かなサンゴ礁の姿を取り戻す。

短期目標：サンゴ礁生態系の回復のきざしが見られるようにする。そのために環境負荷を積極的に軽減する。

このうち、長期目標は、「誰もがイメージしやすい、共有したい自然の姿」を示しています。石西礁湖の写真など、1972 年当時の様子を知ることができる資料や情報は多くは残っていませんが、サンゴのない場所を探す方が大変であったという話を聞きます（写真６）。

なお、長期目標のイメージを描いてみると、図 3-1のような感じでしょうか。

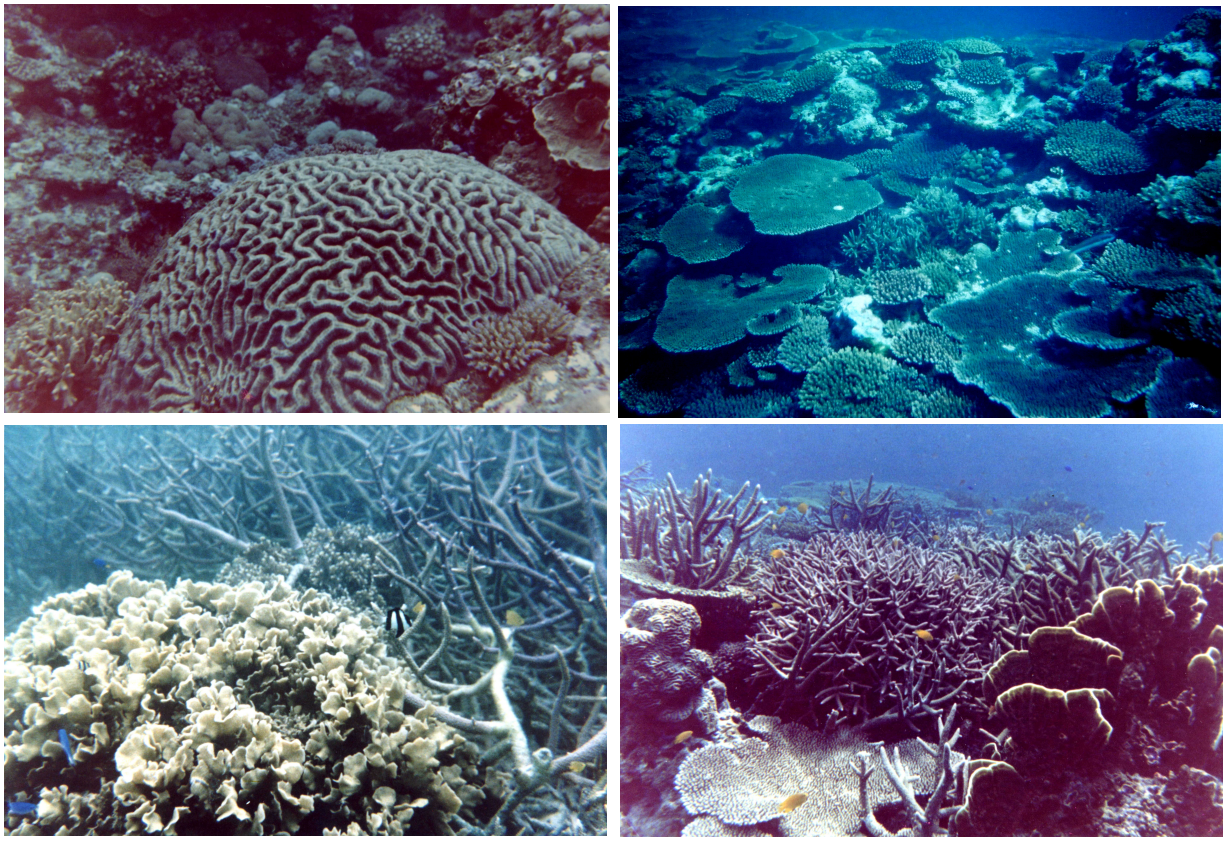

写真６　1970 年代サンゴの状況（左上：午の碆、左下：黒島、右上：午の碆、右下：竹富島）
（写真提供：井田　齊　氏）

図 3-1　未来の石西礁湖のイメージ（石西礁湖自然再生マスタープランより）

ただし、1972 年当時のライフスタイルを取り戻そうというものではありません。豊かなサンゴ礁とそこに暮らす人々が共存していた当時の人と自然の健全な関わりを理解し、現在の社会情勢に見合った人と自然との健全な関わりを実現していこうとするものです。

また、短期目標では、環境負荷を積極的に軽減していくことを掲げていますが、これは、石西礁湖の自然再生を進めていく上で機軸となる取組です。しかし、多くの場合、環境負荷の軽減には時間を要し、その結果は、必ずしもすぐに現れてくるものではありません。また、その因果関係についても明確ではない場合も多く、地球温暖化による海水温の上昇など、協議会を通じた取組だけでは限界があるものもあります。従って、現実的な戦略としては、協議会を通じて実施可能な取組については着実に進め、その進捗状況について評価を行うとともに、サンゴ礁生態系の回復状況を継続的に把握していくことが必要です。加えて、サンゴ礁生態系が本来有している回復力を維持若しくは強化していくよう、良好な海域について保全を図り、必要に応じてサンゴ群集の修復もその手法の１つとして検討していくといった取組も、石西礁湖自然再生を効果的に進めていくためには重要な機軸です。

なお、一度失われた自然環境を取り戻すことは容易ではありません。また、当時と全く同じ状態の自然環境を取り戻すことも難しいでしょう。

しかし、石西礁湖のサンゴ礁生態系を次世代へ受け継いでいくためには、目標の実現に向かって、石西礁湖に関わる多くの人が協力し、行動していくことが必要です。